



研究テーマ

1 犬における3D心エコーを用いた房室弁の形態の評価

2 猫における3D心エコーを用いた僧帽弁の形態の評価



大菅 辰幸

おおすが たつゆき
農学部
獣医学部門獣医学領域

准教授

キーワード

心疾患、心臓病、心臓弁膜症、犬、猫、心エコー、心臓超音波

特許情報・
共同研究・
応用分野など

研究概要

多くの犬、猫が心疾患を患い、心疾患のために健康が害されたり寿命が短くなったりします。現在、犬、猫の心疾患の多くは原因が不明であり、このことも犬、猫における心疾患の予防、治療を難しくしています。私たちの研究室では、心エコーを用いて犬、猫の心臓を評価することで、心疾患の原因の解明や心疾患のより適切な治療法の確立を目指しています。

1 犬における3D心エコーを用いた房室弁の形態の評価

犬における重要な死因の1つが心疾患であり、犬において最も多く診断される心疾患は変性性房室弁逆流(ヒトの心臓弁膜症に類似)です。変性性房室弁逆流は、僧帽弁および三尖弁において進行性的変性と弁逆流が発生する心疾患であり、多くの犬において発生するもののその原因は未解明です。犬の変性性房室弁逆流の治療の柱は現状薬物療法ですが、心臓外科手術による房室弁(主に僧帽弁)の修復も近年行われるようになってきました。私たちの研究室では、3D心エコーを用いて犬の僧帽弁や三尖弁の形態を評価することで、変性性房室弁逆流の原因の解明や心臓外科手術をより正確に行うための房室弁の評価法の確立を目指しています。

2 猫における3D心エコーを用いた僧帽弁の形態の評価

犬と同様、猫における重要な死因の1つが心疾患であり、猫において最も多く診断される心疾患は肥大型心筋症です。肥大型心筋症は、原因不明に左心室が肥厚して左心室の機能が低下する心疾患です。肥大型心筋症は心筋の疾患だと考えられていますが、僧帽弁にも異常が発生し、このことが肥大型心筋症の病態、治療法を複雑にしています。私たちの研究室では、肥大型心筋症の猫において3D心エコーを用いて僧帽弁の評価を行うことで、本疾患の病態の解明やより適切な治療法の確立を目指しています。

ホームページ

技術相談に応じられる関連分野

犬、猫における心エコー解析

メッセージ